

3

1 [土]
ピアニスト辻井伸行の母 辻井いつ子講演会
◎PLAT主ホール

1 [土]
プラットワンコインコンサート
デュオ・ネリネ「めくるめくテューバの世界」
◎PLATアートスペース

15 [土]・16 [日]
MONO『デマゴギージャズ』◎PLATアートスペース

16 [日]
第37回豊橋素人歌舞伎保存会定期公演
◎PLAT主ホール

20 [木・祝]
裕子ピアノ教室フロイデ ピアノコンサート2025
～ Freude an der Musik ～
◎PLATアートスペース

22 [土]・23 [日]
つながる和太鼓 志多ら 豊橋公演
「賜(たまもの)」◎PLAT主ホール

24 [月]
魅惑の歌曲 発売記念コンサート
◎PLATアートスペース

29 [土]
篠崎陽子マリンバリサイタル
◎PLATアートスペース

30 [日]
おしえてオペ博士!“オペラってなあに?”
ファミリーオペラコンサート
『ヘンゼルとグレーテル』◎PLAT主ホール

31 [月]
豊橋演劇鑑賞会第307回例会
トム・プロジェクト『モンテンルパ』
◎PLAT主ホール

PLAT NEWS



4

1 [火]
豊橋演劇鑑賞会第307回例会
トム・プロジェクト『モンテンルパ』
◎PLAT主ホール

5 [土]・6 [日]
舞台『マスタークラス』◎PLAT主ホール

12 [土]
イエスの死を思い起こす集まり◎PLATアートスペース

18 [金] - 20 [日]
東京サンシャインボーイズ 復活公演
『蒙古が襲来』◎PLAT主ホール

26 [土]
プラット2025年度プログラム説明会
◎PLATアートスペース

27 [日]
Musica Felice ピアノ発表会
◎PLATアートスペース

PLAT NEWS

プラットニュース



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

表紙/ケラリーノ・サンドロヴィッチ、緒川たまき
『ベイジルトウンの女神』
裏表紙/樋口ミユ
ワークショップ&ショーイング「赤鬼」
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
令和7年2月発行72号[隔月発行]



CONTENTS

目次

1
目次
インタビュー・表紙の顔

2
INTERVIEW:1
ワークショップ&ショーイング『赤鬼』
言葉は人と人の関係を深めていくと同時に、
相手を攻撃し、自分を守る武器なんだ。
樋口ミュ

5
INTERVIEW:2
MONO『デマゴギージャズ』
デマや陰謀論を信じる人も増えている。人々の
弱さ、愚かさ、滑稽さを描きます。
土田英生

7
INTERVIEW:3
ケムリ研究室no.4『ベイジルトウンの女神』
四六時中お芝居の話をして、アイデアを貯
めていく。
緒川たまき
緒川さんは魅力的になるように、アイデアを
言葉にしてくれる。
ケラリーノ・サンドロヴィッチ

9
INFORMATION
PLAT主催公演情報
TICKET CENTER
「ブラットニュース」発行回数変更のお知らせ

13
PURA PURA
バラコの寄り道ぶらぶら
演劇を繋ぐりぼん
桑原裕子

14
SPONSOR
SUPPORT

INTERVIEW

インタビュー



土田英生[つちだ・ひでお]
劇作家・演出家・俳優 / MONO代表
愛知県出身。1989年に「B級プラクティス」(現
MONO)結成。1990年以降全作品の作・演出を
担当する。1999年『その鉄塔に男たちはいるとい
う』で第6回OMS戯曲賞大賞を受賞。2001年『崩
れた石垣、のぼる鮭たち』(文学座)で第56回芸
術祭賞優秀賞を受賞。2003年文化庁の新進芸
術家留学制度で一年間ロンドンに留学。劇作と
並行してテレビドラマ・映画脚本の執筆も多数。そ
の代表作に、映画『約三十の嘘』、テレビドラマ
『崖っぷちホテル!』『斉藤さん』など。



『ベイジルトウンの女神』
大企業ロイド社の社長として、経営に辣腕を振るう
マーガレット(緒川たまき)。目下の目標は、貧民
街のベイジルトウンの開発。そのため彼女はベイ
ジルトウン第七地区の買収交渉をしようと、ソニッ
ク社社長タチアナ(高田聖子)の元を訪れる。その
昔マーガレット家の小間使いであったタチアナは、
第七地区を売る気がないと言う。食い下がるマー
ガレットにタチアナはある賭けの提案をする。もし
1ヶ月間、無一文で正体を明かさずベイジルトウ
ンで暮らせたら、第七地区はマーガレットに譲る、
しかし途中で断念したらマーガレットが所有して
いる第八地区と第九地区をタチアナが貰う。その
賭けに乗ったマーガレットは、ベイジルトウンに単
身乗り込み、ひょんなことから王様(古田新太)と
ハム(水野美紀)の兄妹が暮らすバラックに居候す
ることに。貧民街ベイジルトウンの人々とも親しみ、
楽しく暮らしていたある日、兄妹のバラックで事件
が起きる――。

COVER

表紙の顔



ケムリ研究室
ケラリーノ・サンドロヴィッチ&緒川たまきの2人が
主宰する演劇ユニット。
ケラリーノ・サンドロヴィッチ
劇作家、演出家、映画監督、音楽家。1982年、
ニューウェイヴバンド「有頂天」を結成。ボーカル
を務め、86年にメジャーレーベルデビュー。イン
ディーズブームの真っ只中で音楽活動を展開。80
年代半ばから演劇活動にも進出。劇団「健康」を
経て、93年に「ナイロン100℃」を結成。結成30
年以上になる劇団のほぼ全公演の作・演出を担当。
また、自らが企画・主宰する「KERA・MAP」「ケムリ
研究室」(緒川たまき氏と共同主宰)等の演劇活動
も人気を集める。99年、『フロズン・ビーチ』で岸
田國士戯曲賞受賞、2018年秋、紫綬褒章を受章
ほか受賞歴多数。Xアカウントは「@kerasand」。
緒川たまき[おがわ・たまき]
映画『PUブ』で女優デビュー。1997年、第35回
ゴールデンアロー賞演劇新人賞、98年、第13回
高崎映画祭最優秀助演女優賞受賞。2020年に
ケラリーノ・サンドロヴィッチと「ケムリ研究室」を旗
揚げ。ケムリ研究室『砂の女』(21年)にて第56回
紀伊國屋演劇賞個人賞、第29回読売演劇大賞
最優秀女優賞受賞。近年の主な出演作品に【舞
台】東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎『三人
吉三郎初買』(24年)、シス・カンパニー『桜の園』
(24年)【映画】『グッドバイ〜嘘からはじまる人生
喜劇〜』(20年)、『クモとサル』(23年)など。



樋口ミュ[ひぐち・みゆ]
劇作家・演出家、Plant M主宰。劇団Ugly duckling
旗揚げ以降、解散までの劇団公演32作品の戯曲
を執筆する。劇団解散後は、座・高円寺の劇場創
造アカデミー演出コースに編入し、佐藤信氏に師
事。2012年にPlant Mを立ち上げる。大阪、東京
とフットワーク軽く飛び回り各地で公演をしている。
2011年から2021年の10年間、3月春分の日
に東日本大震災のチャリティーリーディングを行った。

INTERVIEW

インタビュー



ワークショップ&ショーイング 『赤鬼』

市民参加者全員で
野田秀樹の名作『赤鬼』の
ショーイングを目指す

成果発表会 2月23日[日]14:30開演
作=野田秀樹
脚色・演出=樋口ミュ
演出助手=村田千尋
出演・演出補=武田幹也
出演=オーディションで選ばれた参加者
会場=PLAT創造活動室A

聞き手 吉川剛史 穂の国とよはし芸術劇場PLAT事業制作部

ホントのことが
描かれてある戯曲は
時間を超える。

吉川——まず、自己紹介からお願いします。
樋口——劇作家・演出家の樋口ミュです。Plant M
というユニットで芝居を作っています。基本は大阪で
すが、いろんな場所に行って、その土地で活動して
いる俳優さんとお芝居を作れたらいいなと思って
います。
吉川——『赤鬼』の演出を依頼された時に感じた
ことをお聞かせください。
樋口——高校生の時にビデオで観ていたもの。知
らない時代のことではなく、リアルタイムでもないが、
近い年代で作られているものをあんまり演出する
ことがないから、「なるほど、そう来ますか」と、と
ても面白そうだなと思いました。
吉川——改めて『赤鬼』を読んで、いかがでしたか。
樋口——観て感じたことと、戯曲を読んで感じた
ことが、自分の年齢が上がっていることもあり、
受け取り方が違うと感じたのが面白かった。若い
時に観た時は、差別や偏見の話で、人が人を排
除していく話だと感じました。その時は白人の
人が赤鬼をやっていたから、言語や人種が違
うことによる理解できないもの

への恐怖やその排除を、タイトルの『赤鬼』と表
現していることが、すごく驚きで、印象に残って
いました。「こんな考え方があった」「こんなお
話があるんだ」という驚きと、今まで観たこと
のない演劇だったから、衝撃の方が大きかった
ような気がします。
でも、年を重ねて、今戯曲を読んだ時には、
シンプルに言えば差別なのだが、これは言語を
扱う獣の話、人間そのものの話なんだ。人と
違うことによる排除が差別という形で出てく
るが、差別そのものではない。言葉は人と人
の関係性を深めていくコミュニケーションが、
同時に相手を攻撃することでもあるし、自分
の身を守る武器なんだと思う。この物語の登
場人物は誰が悪いもいない。全ての人たちが、
ただ必死に生きている。それは通常の人間社
会からいうと、まっとうな人々が、自分や自
分の愛おしい人たちの生命を脅かすものか
ら守りながら生きていくことを必死でやった
結果、赤鬼と呼ばれる人の命や居場所を奪
うということになった。それは必死に生きた
結果でもある。実際、今までの人間の歴史は
これそのものだと思う。



言葉は人と人の関係を深めていくと同時に、
相手を攻撃し、自分を守る武器なんだ。
脚色・演出 樋口ミユ

人間社会というものに組み込まれずに生きるしかない「とんび」という人物だけが、その人間の社会的通念というものから外れた観測者の位置にある。私は、とんびが言う「僕は足りませんから」の「足りない」という言葉が気になっています。足りない人間の話は話が足りない。でも彼は足りないことによって、人が思い込んでいる常識とか、人だったら当たり前の人間社会で生きるには普通なものから良い意味で外れていける。私たちも含めて、とんび以外の、話を足していける人間は嘘を足していく。でもこの嘘は、結果的に相手を陥れるのだが、意地悪とか陥れようという前に、自分の身を守るために、ちょっと付け足す嘘をいろんな人が付け足し、付け足して、見たこともない恐ろしいものを人々が勝手に作り上げていく。これは人間と、人間が扱う言葉によって生まれてきたものなのだ。私たちは、まさにコロナで経験しているなと思った。

20代の頃はそこまで観れていなかった。言語化はできないが何となくは分かる、で止まっていたものを、もう一回、今の自分で読み返し、今の自分ならばどう表現ができるかということに取り組めるから面白いなと思いました。

吉川——今回はワークショップ&ショーイングという形で、約十日間の稽古をして、最終日に成果発表となるのですが、どういった作品になりそうですか。

樋口——絶賛考え中です。足りないことと足していくということをどう具体的にアウトプットしようかなと、今探している。とんびは言葉が足りないし、もしかしたら考えが足りないのかもしれない。それ以外の人物たちは、ある意味いろんなものが足りて足し過ぎている。でも、違う見方をすると、とんびはきちんと足りている。とんび以外の人は足りないから何か言葉を足しているのではないかという、このひっくり返っていることをどう表せるかと考えています。

十日間という限られた日数の中で出来ることに取り組みたいから、がっつりセリフを覚えて上演ということが本当に現実的かなと。リーディングという形と、セリフを覚えることと、体を使ってどういうことができるかという、この三つに取り組みたいです。その割合は、どういう役者さんにやってもらうかによって変動があるので、今後いろんなことが確定していくと思っています。

吉川——樋口さんはこれまでも講座やワークショップで PLAT に集まる方々と関わってこれ、他の地域でもお芝居をされておられますが、豊橋の市民の印象

はいかがですか。

樋口——皆さん、積極的に一步前へ出るタイムがすごく短い。他の地域でも、最終的にはやってみようとは必ず一步を踏み出すけれど、その一步を踏み出すまでに10分かかるところを、PLAT に集まる人たちは3秒ぐらいで一步前に出るという感じがある。それは、一步出て、もしこけたとしても大したことはないということ、経験上分かっているから、躊躇せず一步を踏み出すタイムが早いんじゃないかなと、実感として思います。

PLAT が長いこと市民劇に取り組まれている成果として出ていると思います。演劇を信じる力が市民の人たちに強くあるとすごく感じます。

吉川——将来的には、『赤鬼』を一挙上演したいと考えていますが、それに向けて、今年との繋がりはありますか。

樋口——『赤鬼』という戯曲は、ビデオで観たり、パパッと戯曲を読むと、何となくスピーディーにやっちゃいそうな、そういう時代の戯曲です。90年代ぐらいの作品は、バブルのイケイケの名残で、いろんな意味で、勢いでできてしまう感じを受けるのですが、これは勢いでやってはいけない本、時間をかけないと駄目なものだと思う。今回の十日間のショーイングは、この『赤鬼』を理解するため、それを土台にして、次の一挙上演に向けた、前段階の準備と捉えています。長い時間、1年以上、2年近くかけるのが必要だと思います。『赤鬼』の創作に取り組んでいることが、頭の片隅にあると、普段生活している中で思わず不意に出したワードに対して、「これは赤鬼を作らないか」と自分に問える。そのぐらい、『赤鬼』は言葉についての戯曲と捉えているので、時間をいただけるほうが真摯に戯曲を立ち上げられると考えています。それを繋がりと言っていいなら、繋がりはあります。

吉川——最後に、今回の見どころを教えてください。

樋口——ショーイングは、戯曲にどう取り組んでいくかという過程が見られるのが面白いのですが、『赤鬼』を知っている人には『赤鬼』が本当はどんな話なのかなという、再発見を楽しみにしてほしい。『赤鬼』を知らない人は、この作品そのものに出会うことを楽しみにしてほしい。

どうやって言葉を扱えばいいんだろうとか、言葉で人とコミュニケーションを取ることにしんどさを抱えているとか、言葉について考えたい人はぜひ観に来てほしいと思う。

吉川——ありがとうございます。



MONO

『デマゴギージャズ』

デマはこうして奏でられてゆく。

3月15日[土]、16日[日]14:30開演

作・演出＝土田英生

出演＝金替康博、水沼健、奥村泰彦、尾方宣久、渡辺啓太、

石丸奈菜美、高橋明日香、立川茜、土田英生

会場＝PLAT アートスペース

デマや陰謀論を信じる人も増えている。
人々の弱さ、愚かさ、滑稽さを描きます。

演出 土田英生

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場ROCK芸術文化プロデューサー

矢作——長い間男性俳優だけでやってきた中に、3名の女性の俳優さんが入り、作品世界を広げていった時に、彼女たちはどういう部分を担っているのでしょうか。

土田——最初の頃は、もともからいたメンバーの5人を生かす役割になっていたかもしれません。中年男性が若い頃から一緒にいる、そのロマンのようなものが私の中にも残っていたので。けれど、それをジェンダーの問題とか、コンプライアンスの問題とか、自分の中でも社会に合わせたアップデートをしていく中で、そうしたセンチメンタリズムは消えていきました。だから、今は若いとか、女性だからという意識もありません。純粋に作品にとっていい組み合わせで配役しています。男子校の部活のノリとか、男がだだだ集まっているのっていいよねみたいなノリに、うっとりできなくなってきていましたから、いい時期に女性メンバーが入ってきてくれたなと思います。

矢作——元々のメンバー陣とのジェネレーションのギャップはいかがですか。

土田——これは若いメンバーに聞かないとわかりませんが、私から見ればないと思いますよ。9人で楽しくやってる感じです。上が説教することありませんしね。これに関してはハラスメントのガイドラインとか作っていますが、皆が元々そういう人たちだとか。ルール化しているわけではなくとも、みんなで監視し合い、自然とそうしたことは避けてきたと思います。若い子にメンバーが「ちょっと、あれ楽屋から取ってきて」と言ったりすると、横にいたやつが、「なんで使えばしりみたいなことをさせるの、自分で行きなよ」と注意したり。そこは健康的かなという気はします。

矢作——必ず東京・大阪以外でも上演するというスタンスでやってこられている思いをお伺いできますか。

土田——自分たちを取り巻く環境がもっとよくなれとは思っていますが、劇団としてのゴールはないのです。劇場の大きさも、自分たちから広げようとはしていません。作品を年に一回作ることがゴールで、何か結果を待っているのではないのです。作ったものは普通に数多くのお客さんに観てほしいから、行ける限りなるべくいろんな所に行くという感じです。

矢作——最後に、2年ぶりに来ていただく豊橋のお客さんにコメントを一言いただけますか。

土田——豊橋からは遠いですが、僕は一応、愛知県大府市出身なので、豊橋名産ヤマサのちくわのCMをずっと見て育ちました。特に今回は中部地方での上演は豊橋だけなので、自分の地元に戻ってきたという思いでやっています。名古屋も含めて、広い所から観に来てほしいです。

矢作——ありがとうございます。

矢作——今回、新作公演ということで、今までのMONOとは違う作品作りやチャレンジ、試そうとしていることなどお伺いできますか。

土田——最近はSNSとか、それを選挙なんかを見ていても、デマや陰謀論を信じる人が増え、人々がそうしたデマを信じていく過程に興味がありました。そのことを題材にしようというのが一つ。また、二つの時代を交互に描くという試みもします。現代と明治時代を行ったり来たりすることで、過去にはなんでもない物だったのに時の経過によって神聖なものに変化する馬鹿馬鹿しさを面白く描けるかなと思っています。

例えば、僕が立命館大学に通っていた頃、創立者は西園寺公望の弟子の中川小十郎だとされてきました。しかし最近のパンフレットを見たら、知らない人が読めば創立者は西園寺公望だと思ってしまうだろう書き方になっているのです。間違いではないのかもしれませんが、歴史修正主義というか、こういうことが僕は本当に怖くて、その辺を笑えるように書きたいなと。明治のシーンが現在のシーンへの答え合わせになる、という仕掛けにしようと考えています。

矢作——土田さんが、過去の時代を描こうとする時、どういうところを手掛かりにされるのですか。

土田——過去に、弥生時代とか江戸時代を題材にしましたが、江戸時代だと学術書や、イラストで分かる江戸の暮らしとかという本も参考にしました。弥生時代は資料が少ないので想像がほとんどです。もともと歴史とか城が好きですし、人間というものは変わらないという持論なので、世界が想像さえできれば、現代のものを書くのとあまり変わらないですね。

矢作——プロデュースカンパニーが多い中で、MONOはあくまで劇団として、同じメンバーで作品作りをしています。それについての土田さんの思いや、作品にそれがどう生きてくるのかお聞かせいただけますか。

土田——そうなんです。そこをもっと評価していただきたいですね。例えば、京都には狂言の茂山家がありますが、一緒に仕事させてもらった時に感心しました。当然のことながら茂山家に伝わる狂言の所作を全員ができる。ああした集団を目指しているのかもしれませんが。小劇場とはいえ、劇団で培ってきている演技法や技術を共有しているメンバーで新しいことをやりたい。どんなに華のある有名な俳優でも、現代劇の人には狂言はできません。それと同じで、MONOというものを、ある種の古典みたいなものにしたと思ってるところがありますね。でもそれは観ている方にはなかなか分かりづらいとか。このことの問題の一つは、毎回同じ印象になってしまい、アピールにかけてしまうところですかね。

矢作——まずは今回の“ケムリ研究室”についてお伺いできますか？

緒川——作家・演出家のKERAさんと私が主宰として、物事を二人三脚で相談しながら創作していくユニットです。KERAさんは劇団を持っているし、プロデュース公演もたくさん演出しているんですが、そばにいる私からは、まだやっていないことがいくつもあるように見えています。そもそもKERAさんはやりたいことが色々あるから、二番手三番手で思い浮かぶことは後回しにしてきた人ではあるんですけど、そうやって零れ落ちたものの中に、すごく鮮度の高い、きっと面白いだろうと思うものが色々ある。ケムリ研究室では、私も相棒としてそういうものをやろうと強く進言できる立場を得た感じ。それによってKERAさんも様々な冒険や新鮮な悩みを体験して、作品に面白みが加わるのではないかというのが、私から見たケムリ研究室の醍醐味、存在価値です。

KERA——基本的にいつも僕は一人で作・演出をやっています。もちろん、稽古に入れば役者さんやスタッフと一緒に具現化していくんですが、一方、ケムリ研究室では、あらゆることを緒川さんと二人で進めています。そういう意味でこのユニットでの公演は、他にない創作を用意してくれる特別なものなんです。緒川さんと重なりますが、僕一人ではやらなかつただろう企画を、彼女に背中を押してもらうことによって、じゃあやろう!となることが多いですね。公演だけじゃなくて、プレ・イベントのリーディング等も彼女の提案でやってきました。ただ、この旗上げ公演の『ベイジルタウ

ンの女神』はちょっと違うよね。

緒川——そうですね。元々華やかなものをやろうと話してはいたんですけど。

KERA——2020年の初演は、コロナ禍の中で全てが形作られていったので、その影響は大きいし、それ抜きでは回想できない。肌触りみたいなものも含めて全部セットになっている感じです。

緒川——コロナのことを予想もしていなかった前年に二人で構想を始めていました。ケムリ研究室の旗揚げなので、祝祭感が高く、少しでも華やかに打ち上げた方がいいんじゃないかというKERAさんのジャッジがあって。ハートウォーミングなものは気恥ずかしいという苦手意識があったのですが、コロナ禍を体験することによってハートに訴えるものを嘘偽りなく求めた作品になりました。そこが時代に、少し肩車してもらったと言えるかもしれません。

KERA——もっとシニカルなもの、少しビターな印象を残す作品になる可能性もあったけど、コロナ禍の中できついものは見せたくなかつたし、やりたくなかつた。

緒川——そうして誕生したベイジルタウンでした。すでに愛着がありますから、時代のムードが変わっても今さらビターなものにしようとは、二人とも思わないと思います。

矢作——緒川たまきさんの俳優としての魅力についてお伺いできますでしょうか。

KERA——稀なタイプの役者さんだと思いますよ。古いものが好きで、同年代の俳優の中でもスッと外に出

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー

出演 緒川たまき

四六時中二人でお芝居の話をして、アイデアを貯めていく。

作・演出 ケラリーノ・サンドロヴィッチ
緒川さんは魅力的になるように、アイデアを言葉にしてくれる。

てくる佇まいと雰囲気時代性をまとっているんです。それは代えがたいものだと思う。それをいろんな方向に転がしていくことによって、毎作品なるべく新鮮なものにしたいなと。『ベイジルタウンの女神』は、1930～40年代のアメリカ映画のソフィスティケイテッドコメディみたいなものが念頭にあった。そうしたイメージでなかなか他人に通じないと思うんですね。緒川さんにはスッとビットに通じるし、伝えやすいというのがあります。

矢作——KERAさんが求める世界観を体現化する俳優、そして創作のパートナーとしても、とても重要な存在なんですね。

KERA——重要です。稽古場に入ってから創り始めるのだと間に合わない。緒川さんとなら、生活する中で一緒に創っていくみたいなきがができますからね。

緒川——四六時中、二人でお芝居の話をしています。その中には形にならなかつたものがいっぱいあるんですけど、一応言葉にしてみるんです。そこから波紋を広げるように、アイデアを貯めていく。

KERA——緒川さんはアイデアを言葉にしてくれる。一例を挙げると、初演で仲村トオルくんに当て書きした王様の役を、再演で古田新太くんに演じてもらうことになった際、どこをどうしたらもっと魅力的になるのかとか。この役をどういう風に、どちらの方向にどう動かしたらいいと思うかってことを、明確に言葉にしてくれる。そうすると、確かにをうだなって思えることが多いんですよ。

緒川——仲村さんの演じた“王様”は人たらしである

と同時に、妹が心配するような少し抜けたところがあるような人柄。古田さんも素の魅力で人たらしの部分は強烈に持っていらっしゃると思うので、それなら今回はちょっと違う角度の、意地悪でもいいし、乱暴だったり敵が多い人物でも成立すると思うんです。どの役も、その方がやってこそ生きるってところを、ちゃんと掘り出したいっていうのは二人で話して。再演とはいえ、色んなことをトライして創り上げることにしたいと思います。

矢作——今回初めてご覧になる方に、お勧めの言葉をいただけますでしょうか。

緒川——この作品は観る人を選ばない、本当にどんな方にも、きっと楽しんでいただける作品です。どんなものでも包める包装紙って言うとおかしいですけど、かなり包容力のある作品だと思うんです。劇場で楽しいひとときを過ごしたい。だけど、どんな作品を選んでいいかわからないっていう人に自信をもっておすすめします。

KERA——実験的なものや毒っ気のあるものが好きな人でも、観たらきっと面白いと思います。

矢作——皆さん楽しみに待っていると思います。ありがとうございます。

KERA・緒川——ありがとうございます。

INTERVIEW



ケムリ研究室 no.4
『ベイジルタウンの女神』
俗世知らずのお嬢様と乞食の王様が恋をした—
6月6日[金]18:00開演
7日[土]、8日[日]13:00開演
作・演出＝ケラリーノ・サンドロヴィッチ
出演＝緒川たまき、古田新太、水野美紀、山内圭哉、坂東龍汰、藤間爽子、小園茉奈、後東ようこ、齊藤悠、依田朋子、中上サツキ、秋元龍太郎、尾方宣久、菅原永二、植本純米、温水洋一、犬山イヌコ、高田聖子
会場＝PLAT主ホール

MONO 好評発売中

『デマゴギージャズ』

3/15 [土] 14:30 開演

3/16 [日] 14:30 開演

ある場所の昔と今、ふたつの時代に暮らす人々をMONOが得意とする会話劇で描く！PLATでは2023年3月『なるべく派手な服を着る』以来の上演です。

ー現在、陰謀論などが広がっています。果たして人はなぜ根拠のない物語を信じてしまうのか。その疑問からこの作品はスタートしました。現在と過去の登場人物たちもリンクさせつつ、人々の弱さ、愚かさ、滑稽さを描きます。ー

3月15日のみ

作・演出＝土田英生
出演＝金替康博、水沼 健、奥村泰彦、尾方宣久、渡辺啓太、石丸奈菜美、高橋明日香、立川 茜、土田英生
会場＝PLAT アートスペース
料金＝[全席指定]一般4,000円、U25 2,000円
※15日(土)は終演後トークあり



MONO『御菓子司 亀屋権太楼』(2024年)舞台写真撮影:井上高和

東京サンシャインボーイズ 復活公演

『蒙古が襲来』

Mongolia is coming』

4/18 [金] 18:00 開演

4/19 [土] 13:00 開演 / 18:00 開演

4/20 [日] 13:00 開演

時は鎌倉、対馬の漁村。昨日と変わらぬ穏やかな一日。異国の襲来が目の前に迫っている事を、彼らはまだ知らない。

『30年の充電期間』を経て、三谷幸喜主宰の東京サンシャインボーイズが完全新作公演で再結集いたします。
作・演出＝三谷幸喜
出演＝相島一之、阿南健治、伊藤俊人、小原雅人、梶原善、甲本雅裕、小林 隆、近藤芳正、谷川清美、西田 薫、西村まど彦、野仲イサオ、宮地雅子、吉田 羊
会場＝PLAT主ホール
[共同主催:メ〜テレ、メ〜テレ事業]



プラット2025年度プログラム説明会

4/26 [土] 14:00 開演

2025年度、プラットがお贈りする主催・共催プログラムをご紹介します。
ゲスト出演＝安間誉和(ピアノ・作曲)
会場＝PLATアートスペース
料金＝無料(要整理券または劇場ホームページから要申込)
※整理券はプラットチケットセンターにて4月1日(火)より配布開始



託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せは
プラットチケットセンターまで



マイセレクト4 対象公演



マイセレクト4 対象公演

ケムリ研究室 no.4

『ベイジルタウンの女神』

6/6 [金] 18:00 開演

6/7 [土] 13:00 開演

6/8 [日] 13:00 開演

2020年9月のコロナ禍のため収容人数制限下で上演されたケラリーノ・サンドロヴィッチと緒川たまきが立ち上げたユニット「ケムリ研究室」旗揚げ公演の待望の再演。俗世知らずのお嬢様と“乞食の王様”が繰り広げる、大人のロマンティック・コメディ。
会員先行＝3月22日(土)
一般発売＝4月5日(土)
作・演出＝ケラリーノ・サンドロヴィッチ
出演＝緒川たまき、古田新太、水野美紀、山内圭哉、坂東龍汰、藤間爽子、小園菜奈、後東ようこ、斉藤 悠、依田朋子、中上サツキ、秋元龍太郎、尾方宣久、菅原永二、植本純米、温水洋一、犬山イヌコ、高田聖子
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]S席11,000円、S席ペア20,000円、A席8,000円 ほか
※発売日初日は、お一人様1申込につき1公演4枚またはS席ペア2組までの枚数制限あり。



『ベイジルタウンの女神』舞台写真撮影:引地信彦

とよはしアートフェスティバル2025 大道芸 in とよはし

5/4 [日・祝] 12:00-18:00

5/5 [月・祝] 11:00-16:00

マイムにアクロバット、JAZZなどの超豪華ラインナップ・世界で活躍する大道芸人たちがPLATの北側広場など屋外でパフォーマンスを行います。
会場＝PLAT北側広場ほか
※詳細は決まり次第、ホームページで公開いたします。
料金＝無料

【ボランティアスタッフ募集】

『大道芸 in とよはし』と一緒に盛り上げてくれる仲間を募集します！
活動時間＝各日10:00～18:00を予定
参加条件＝18歳以上で事前説明会どちらか一日に参加できる方
事前説明会＝
4月11日(金)19:00～21:00、12日(土)13:00～15:00
事前説明会会場＝PLAT創造活動室A
定員＝40名程度(申込順)
申込方法＝
4月4日(金)までに①参加申込書を窓口、FAXにて提出
②劇場ホームページの専用申込フォームより



撮影:伊藤華織

『星の降る時』

6/27 [金] 18:00 開演

6/28 [土] 13:00 開演

6/29 [日] 13:00 開演

2023年英国ナショナル・シアターで上演されるやいなや絶賛され、2024年度「ローレンス・オリヴィエ賞」BEST PLAYにノミネートされたベス・スティールの新作戯曲を、栗山民也の演出で豪華俳優陣を迎え世界に先駆けて上演。母親を早くに亡くし、元炭鉱夫の父に育てられた三人娘。今日は三女の結婚式。久しぶりに集まった家族と親戚。ウオッカが振る舞われ、ダンスに興じ、人生で一番幸せな時を過ごすはずの家族だったが、過去の確執や裏切り、憤りなどが、次第に浮かび上がり…。



会員先行＝4月12日(土)
一般発売＝4月26日(土)
作＝ベス・スティール
翻訳＝小田島則子
演出＝栗山民也
出演＝江口のりこ、那須 凜、三浦透子、近藤公園、山崎大輝、八十田勇一/秋山菜津子、段田安則 ほか
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]S席11,000円、S席ペア20,000円、A席8,000円 ほか
※発売日初日は、お一人様1申込につき1公演4枚またはS席ペア2組までの枚数制限あり。
[共同主催:メ〜テレ、メ〜テレ事業]

6月29日のみ

PICKUP

若手音楽家育成事業

辻純佳 & 磯谷莉佳 デュオコンサート 『風薫るパリのひととき』

6/21 [土] 14:00開演 会場=PLATアートスペース
料金=[全席自由・整理番号付]一般1,500円、U25 700円
会員・一般発売=2月28日(金)

演奏予定曲目=ラヴェル:《鏡》、ドビュッシー:ヴァイオリンソナタ、フォーレ:ヴァイオリンソナタ1番 ほか
「プラットフォームコンサート」2021年度に選ばれた、ヴァイオリニスト・辻純佳と、こでまりデュオとして活動していたピアニスト・磯谷莉佳がこの度デュオとして登場。東京藝術大学大学院で研鑽を積んだ2人の演奏をどうぞお楽しみに!



辻純佳
撮影: Ayane Shindo

辻純佳[ヴァイオリン]
東京藝術大学音楽学部を経て同大学大学院音楽研究科を修了。故石田なをみ、漆原朝子、松原勝也、玉井菜採、白井圭の各氏に師事。
Festival Academy Budapest、東京春音楽祭イタリアオペラアカデミー、Schleswig-Holstein Musik Festival等に参加。
2019-2021年ヤマハ音楽振興会奨学生。紀尾井ホール室内管弦楽団2025年度シーズンメンバー。

磯谷莉佳[ピアノ]
愛知県立明和高等学校音楽科、東京音楽大学ピアノ演奏家コースを経て、東京藝術大学大学院室内楽科に在籍。現在、松本和将氏、萩原麻未氏に師事。
全日本学生音楽コンクール名古屋大会第1位、全国大会入選。トカチェフスキ国際ピアノコンクール(Poland)第3位、現地オーケストラと共演。
プラットフォームコンサート等多数の演奏会に出演する他、伴奏者、指導者としても活動している。



磯谷莉佳
撮影: Ayane Shindo

『ザ・ヒューマンズー人間たち』

7/5 [土] 13:00開演
7/6 [日] 13:00開演

劇作家・脚本家として活躍するスティーヴン・キャラムのヒット作、『ザ・ヒューマンズー人間たち』。マンハッタンのおかしなアパートを舞台に、感謝祭を祝うために集まったある家族の会話から、貧困、老い、病気、愛の喪失への不安、宗教をめぐる対立などが浮かびあがる一夜の物語。ビュリッツァー賞演劇部門最終候補、トニー賞、ニューヨーク演劇批評家協会賞の最優秀プレイ、オビ賞劇作賞を受賞した本作を桑原裕子の演出により日本初演。

会員先行=4月26日(土)
一般発売=5月10日(土)
作=スティーヴン・キャラム
翻訳=広田敦郎
演出=桑原裕子
出演=山崎静代、青山美郷、細川岳、稲川実代子、増子俊文、平田満
会場=PLAT主ホール
料金=[全席指定]S席6,000円、A席4,000円 ほか
※発売日初日は、お一人様1申込につき1公演4枚までの枚数制限あり。



山崎静代

青山美郷

細川岳

稲川実代子

増子俊文

平田満

7月5日のみ マイセレクト 2025 4

ONE CON CONCERT

ワンコインコンサート

若手音楽家育成事業
プラットフォームコンサート
若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのコンサートです。500円でぜひひとときをお過ごしください。
会場=PLATアートスペース
料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]500円

「めくるめくチューバの世界」
3/1 [土] 14:00開演 好評発売中
デュオ・ネリネ
渡邊望(チューバ)、中條響(ピアノ)
演奏予定曲目=ラフマニノフ: ヴォカリーズ、クーツィール: チューバコンチェルト作品77 ほか



「わや!なおもちゃ箱」
5/30 [金] 14:00開演
Musica Waya
武田涼雅(サクソフォーン)、市居有香(ピアノ)
演奏予定曲目=ラフマニノフ: リラの花 Op.21-5、カプースチン: サクソフォーン協奏曲 Op.50
会員・一般発売=2月28日(金)



WORKSHOP

ワークショップ・レクチャー

小・中学校・特別支援学校に
出向いてのワークショップ&
ワークショップファシリテーター養成講座
報告会2024
2/15 [土] 14:00~16:00
プラットが実施する教育普及活動の報告および、意見交換会をします。
会場=PLAT 研修室(大)
料金=無料
対象=高校生以上
定員=40人(先着順)
申込方法=
①プラットフォームセンター窓口・電話(0532-39-3090)
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

ワークショップ&ショーイング
『赤鬼』成果発表会
2/23 [日] 14:30開演

作=野田秀樹
脚色・演出=樋口ミユ
演出助手=村田千尋
出演・演出補=武田幹也
出演=オーディションで選ばれた参加者
会場=PLAT 創造活動室A
料金=500円
対象=小学生以上
定員=60人(先着順)
申込方法=
①プラットフォームセンター窓口・電話(0532-39-3090)
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

高校生と創る演劇サマーキャンプ
ワークショップ&作品試演会
参加者募集

ファシリテーター・演劇家である柏木陽と、中学3年生~高校生参加者が6日間のワークショップを重ね、最終日には成果発表として、作品試演会を行います。5月プレワークショップのみの参加も可能です。
対象=2007年4月2日~2011年4月1日生まれで、5月25日(日)、8月12日(火)~17日(日)のワークショップと作品試演会に全日程参加できる方。演劇経験不問。
定員=15人程度(選考)
プレワークショップ=5月25日(日)13:00~18:00
申込方法=5月12日(月)17:00までに
①参加申込書を窓口・FAX(0532-55-8192)にて提出
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

TICKET CENTER

チケットセンター

チケットの購入・お問合せ
プラットフォームチケットセンター

●オンライン
https://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]
●劇場電話・窓口
0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]

発売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。
翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金=U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円
●購入方法=各公演の一般発売初日から取扱い。
●その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
※一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



プラットフォーム募集
入会金・年会費無料

●特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

2025年度マイセレクト4発売

会員様限定!演劇、ダンスなど多彩な公演からお好きな4演目を選ぶ自分だけの「マイセレクト4」。贈り物としてもご利用いただけます。
発売開始=4月5日(土)
対象公演=『ザ・ヒューマンズー人間たち』ほか
※詳細は4月に公開します。

NEWS

「プラットフォームニュース」発行回数変更のお知らせ

いつも「プラットフォームニュース」をご覧いただき、誠にありがとうございます。
これまで年6回発行しておりました「プラットフォームニュース」は、令和7年度より発行回数を年4回に変更することとなりました。
(発行月:4月・7月・10月・1月)
今後もプラットフォームの情報盛りだくさんでお届けしてまいりますので、引き続きご覧ください。

演劇を繋ぐりぼん

桑原裕子

穂の国とよはし芸術劇場 芸術監督



提供:おふいす300

「あたしやっぱり、こう言うの、アングラみたいなもの、向かないんだと思う」
 「40年前はみんな必死だったじゃないの。あの頃は、生魚くわえて踊ったり、頭を安全カミソリで切り刻んだりするパフォーマンスが流行っていた時代よ」

「信じられない。それ日本の話ですか？」
 こんなやりとりが交わされているのは、1月に私が出演していた『鯨よ!私の手に乗れ』という舞台の劇中。

俳優、劇作家、演出家の渡辺えりさんが、今年70歳の古稀を迎えた記念に「一生に一度の前人未踏の挑戦」として、今作と『りぼん』という2作品を連続上演するという試みに私も参加していました。キャストは総勢40名以上!

その中で、えりさんと同じく俳優で劇作家で演出を兼ねる私は、なんと「渡辺えり役」という光栄なる大役を仰せつかりました。『鯨よ〜』の物語の一部はえりさんの実体験に基づくのです。

私が演じるのは東京で活躍する演劇人、絵夢。田舎の介護施設にいる母を見舞いに訪れた絵夢は、母へ対する施設の待遇の悪さに嘆き、わめき、あれこれと文句をつけては大騒ぎ。これはまさにえりさんの実体験だそう。この作品は再演ですが、初演のときに役に寄り添ってさめざめと演じていた私にえりさんは「そんなに大人しくしないで!もっと暴れて!私は実際にもっと大暴れしたんだから!」というのです。ええ……なので、冒頭から暴れん坊女優・絵夢は大汗をかいて施設をかき回します。

ですがやがて、絵夢の母を含め、そこで暮らす高齢の入所者たちが実は40年前に

同じ地方劇団で活動していた劇団員たちで、むかし上演できなかった舞台を認知症を患いながらも未だに稽古しているということを知ります。訳あってラストシーンが紛失してしまった台本を絵夢が引き継ぎ書き起こすことで、介護士や家族も協力し全員で舞台を完成させよう、というストーリー。そこで冒頭の「アングラ談義」が行われるわけです。

「当時は難解じゃないものは演劇とは認められませんでしたから」と豪語するアングラ演出家を演じるのは77歳の木野花さん。そして私の母で元劇団員を演じるのは82歳の三田和代さん。他に、レーザー石井さんや宇梶剛士さんなどもいらっしやるので、40年前を知る俳優陣の台詞の説得力にはすさまじいものがあります。渡辺えり作品が介護施設に留まり続けるはずもなく、突如ミュージカルが始まりもすれば、舞台は田園に、全共闘の紛争地帯に、国境なき医師団が乗り込む潜水艦にも変化します。反戦、女性解放、難民の救済、母子の因果、そして永遠の演劇愛。盛り込みすぎ!と突っ込まれそうな溢れんばかりのテーマを、膨大な知識のもと幻想の世界で同い板の上に載せ、人間の肉体と想像で創造する。はちゃめちゃで台詞は難解、きまじめに筋道を追おうとすれば迷子になることもあるけれど、いつの間にか言葉に出来ない感動が押し寄せて圧倒される。毎ステージ、レジェンド級の俳優陣たちと共に同い板の上に立ちながら、これがアングラ演劇の力か、と私の目からじよぼじよぼと水がこぼれていました。

しかしそれが現代の若者たちにも伝わる

のか。熱した鉄板の上を歩くがごとく演劇パッションを若い出演者たちが理解し、共鳴し、同じ熱量で向かえるのだろうか。

若くもなく、レジェンドでもない中堅代表である私の興味はそこにありました。熱くなるのはベテラン勢ばかりで、そんな大人を若者たちが冷ややかに見つめていたらどうしよう。「もっと死ぬ気でやっつてよ!」と劇中の稽古シーンで木野花さんが叱咤する面白いシーンがありますが、実際にそれを稽古場で言ったらこのご時世「はいでた、パワハラ案件」と認定されて終了、なんてこともあるわけです。

しかし実際の若者たちは私の想像よりもっと賢く、深く、熱く、アングラ演劇を理解しているようでした。舞台の上や舞台袖で、先輩俳優の演技を見つめる若者たちの目の美しいこと。同時上演の『りぼん』という作品で、老いも若きも全てのキャストが修学旅行の中学生を演じているシーンの、年齢を超越した共鳴し合う俳優たちのエネルギー。全員個性が輝いているのに、ひとつの大きな生き物になっているように見えました。

初演は自分のことで精一杯でしたが、中堅、もとい、中年になった私は、そんな若者たちの姿に、ああ演劇はまだ大丈夫だと不思議な安堵を覚えたのでした。

「死ぬまでにやっておきたい挑戦」だとえりさんはこの連続上演について話しました。でもこれは自身の欲求を超え、えりさんから若い演劇人たち(中堅中年の私も含め)へ託すバトンであり、未来の演劇に絶えることなき糧を届ける母の膂の緒のごとき、りぼんなのかもしれません。

知識製造業
三遠機材株式会社
 http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES
 architects & engineers
吉野設計研究所
 http://www.440a.co.jp

有限会社 魚伊
 電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
 電話 053-464-3015

ケンチク 701
 KURONO ARCHITECT STUDIO
 y.qlo0170@gmail.com

看板広告 **アラキスタジオ**
 豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
 TEL.54-2345

なければつくる **株式会社オノコム**

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
 豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
表巻きく宗
 豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
 豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

60th anniversary

Carbon Offset for
 150g CO2eq
Waterloo
 Printing. Naturally.
 CO2削減に貢献しています!
 カーボンオフセット
 この印刷物は、環境負荷を低減する
 「インクレス印刷」を採用しており、
 地球のCO2削減事業を支援しています。

豊橋銀行協会 (順不同)
 三菱UFJ銀行 三井住友銀行 十六銀行 みずほ銀行 愛知銀行 静岡銀行 名古屋銀行 清水銀行 三十三銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園
 御菓子司

気まぐれコンサート
 事務局/0532-62-9259(小川)

安心・安全な地下駐車場
パワ500
 プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
 30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
医療法人 塩之谷整形外科
 理事長 塩之谷 香
 豊橋市植田町取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 **舟ちくわ**

井上皮フ科クリニック
 診療時間 月・火・木 10:00~13:00 16:00~19:00
 土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
 電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
 豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
 院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
 書道用品専門店 **高誠堂**
 豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
 豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
 サラグループ



私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

- 株式会社アイゼロ
- 旭精機株式会社
- 株式会社イクモ
- 税理士法人イグラ会計
- イノチオホールディングス株式会社
- 株式会社エクステージ
- 大和田和恵
- 株式会社オリエント楽器
- 医療法人佳道会 藤城歯科医院
- 蒲郡信用金庫
- 川西塗装株式会社

- 河原崎 妙
- 株式会社三光製作所
- 三光精密工業株式会社
- サーラエナジー株式会社
- 株式会社サーラコーポレーション
- 三遠機材株式会社
- 株式会社東雲座カンパニー
- 株式会社シュガーサウンド
- 大三紙業株式会社
- 戸田淳子

- トヨタネ株式会社
- トヨネン株式会社
- 株式会社豊橋印刷社
- 豊橋芸術文化事業サポート株式会社
- 豊橋ケーブルネットワーク株式会社
- 豊橋信用金庫
- 豊橋倉庫株式会社
- 豊橋鉄道株式会社
- 早川直宏

- 株式会社平松食品
- 藤城建設株式会社
- 学校法人藤ノ花学園
- 株式会社豊川堂
- 松井商事株式会社
- 村田小児歯科センター
- 物語コーポレーション
- 有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
- 若松園

匿名会員2名 (五十音順)

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
 電話=0532-39-8810[代表](9:00-20:00)
 開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
 第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
 豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
 新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
 ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
 お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 **PLAT**